

日衛連NEWS

Japan
Hygiene Products
Industry Association

発行／(一社)日本衛生材料工業連合会

特集 第三回『日中衛生用品企業交流会』厦門にて開催

2016年11月1日、2日の2日間に渡り中国福建省厦門市にて、『日中衛生用品企業交流会』を開催しました。この交流会は(一社)日本衛生材料工業連合会と、中国造紙協会生活用紙專業委員会との共同開催によるもので、乳幼児用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理処理用品を中心とした衛生用品の販売、製造に携わるメーカーなどが出席。2011年(上海)、2014年(東京)に続き、さらなる熱気を持って開催された様子をレポートします。



目次

第三回『日中衛生用品企業交流会』両団体の代表挨拶

- 中国造紙協会生活用紙專業委員会副主任 許連捷 氏
- (一社)日本衛生材料工業連合会副会長、全国紙製衛生材料工業会会長 古山陽子 氏

中国造紙協会からの講演

- 中国の衛生用品市場について:江曼霞 氏
- エアスルー不織布の革新と表面層への応用:謝繼華 氏
- 中国の紙おむつのコア吸収体構造の現状と将来動向:譚叙鈞 氏
- 弾性不織布製品の紹介:鄧偉添 氏
- 衛生用品設備の変革の紹介:韓璐遥祖 氏

日衛連からの講演

- 日本の衛生用品市場について:高橋紳哉 氏
- 大人用紙おむつの市場動向、種類と選択方法そして国際標準:宮澤清 氏
- 衛生材料(紙おむつ・生理処理用品)用不織布の動向:北洞俊明 氏
- 紙おむつに求められる吸水性樹脂の機能と動向:三宅浩司 氏

質疑応答

講演会・交流会のまとめ

展示コーナー

レセプションパーティー

工場視察

未来への絆を結ぶ、期待に満ちた開会の宣言 ～日中代表者の挨拶～

11月1日に開催された交流会には、乳幼児用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理処理用品を中心とした衛生用品の製造販売に携わる製造・販売メーカー、資材サプライヤーなどが出席。日衛連から24社39名、中国造紙協会生活用紙専門委員会からは100社225名、合計264名が一堂に会し、冒頭、日中両団体代表者による挨拶により開催が宣言され、日本と中国の商品、市場、品質、安全性など様々な分野の面から出席者が発表し、意見交換をしました。

■ 中国造紙協会生活用紙専門委員会副主任 許連捷 氏挨拶

冒頭、多くの日中企業の参加と、日本の協力、支援に深い感謝と熱烈な歓迎の意を表しました。そして、今回の会議の主題と目標は解放、共有、発展であり、出席者全員が共通の思いを持ち、今日という貴重な日に集ったことの重要性を述べられました。

現在の両国の衛生用品業界は、「生産と技術」、「品質と管理」、「消費と市場」などの面で強い相補性があり、ともに発展の機会と挑戦に向かい協力できる環境だ、と説明。

今回の会議で、衛生用品業界の成長潜在力や協力分野をさらに掘り起し、日中企業間のwin-win関係をさらに深めることで、消費者に貢献することを心から希望しますと強い期待を述べられました。



中国造紙協会生活用紙専門委員会 副主任 許連捷氏

■ (一社)日本衛生材料工業連合会副会長 全国紙製衛生材料工業会会長 古山陽子氏挨拶

日中両国の地道なコミュニケーションと協力体制の継続により、このたび第三回の開催の運びとなったこと、皆様に敬意を表します、と祝意を述べたうえで、

日中両国の「高齢化社会」の近似性をあげ、「健康寿命の延伸」への強い期待や高齢の親を思う気持ちは両国共通であり、それらは消費者のニーズの高まりと需要につながるものと、説明されました。

日中の優れた機能の製品とサービスは、そのような高齢化社会において、安心・安全・経済的な介護への貢献につながることであり、このような活動は、両国業界の使命と再認識する機会にしたいと述べられました。

このように二年ぶりの開催への喜びと、互いへの敬意、そして未来への展望などが大いに語られました。



(一社)日本衛生材料工業連合会 副会長 古山陽子氏

そして挨拶の後、中国造紙協会生活用紙専門委員会常務副事務局長 張玉蘭氏、(一社)日本衛生材料工業連合会常任理事／全国紙製衛生材料工業会副会長 天田泰正氏から両国主要出席者の紹介が行われました。

中国造紙協会からの講演

中国における衛生用品市場の動向や、販売チャネルとしてECチャネル(インターネットを通じた市場)のウェイトが拡大していること、商品機能の革新点をはじめとした市場を拡大させている様々な取り組みが5人の講演者により紹介されました。

■ 中国の衛生用品市場について

中国造紙協会生活用紙専門委員会 秘書長/事務局長 江曼霞氏

■ エアスルー不織布の革新と表面層への応用

廈門延江新材料有限公司 会長 謝繼華氏

■ 中国の紙おむつのコア吸収体構造の現状と将来動向

湖南康程有限公司会長 譚叙鈞氏

■ 弾性不織布製品の紹介

佛山市南海必得福不織布有限公司 鄧偉添氏

■ 衛生用品設備の変革の紹介

黄山富田精工製造有限公司 マネジャー韓璐遥祖氏



江曼霞氏



謝繼華氏



譚叙鈞氏



鄧偉添氏



韓璐遥祖氏

日衛連からの講演

日本の衛生用品市場について報告された後、日本の高齢者介護と大人用紙おむつの現状の紹介、そして品質、安全等が重視されている現在、関係する基準、標準化活動について紹介されました。製品だけでなく素材にも求められて活動している日本の現状やそこに即した衛生用品の技術展開などの報告は、大きな興味を持たれることとなりました。

■ 日本の衛生用品市場について

(一社)日本衛生材料工業連合会専務理事 高橋紳哉氏

■ 大人用紙おむつの市場動向、種類と選択方法 そして国際標準

(一社)日本衛生材料工業連合会技術委員会副委員長/
ユニ・チャーム(株)CSR本部長 宮澤清氏

■ 衛生材料(紙おむつ・生理用品)用不織布の動向

日本不織布協会事務局長 北洞俊明氏

■ 紙おむつに求められる吸水性樹脂の機能と動向

吸水性樹脂工業会技術委員長 三宅浩司氏



高橋紳哉氏



宮澤清氏



北洞俊明氏



三宅浩司氏

第三回『日中衛生用品企業交流会』質疑応答

全講演終了後、質疑応答の時間が設けられました。1時間の予定を大幅に超え、活発な討議が行われました。

中国側出席者からは、品質、規格、規制や国際標準、大人用紙おむつや失禁用品の使用状況など先行する日本の活動情報について質問が集中し、日本側出席者からは、市場の成長、販売チャネル、制度などに関する質問が寄せられました。

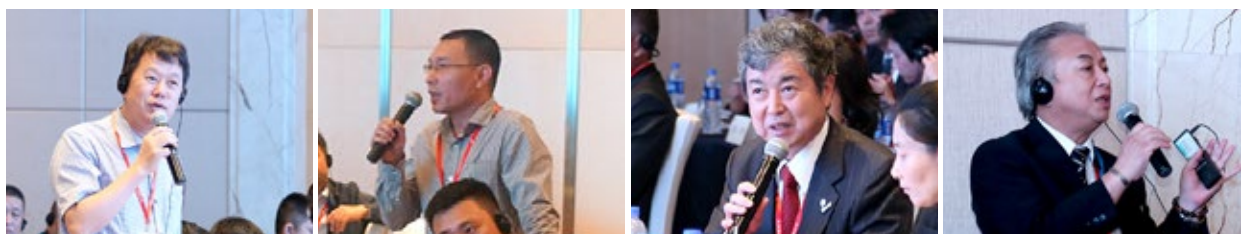
ここでは両国からの質問の一部をご紹介します。

中国から日本へ

- Q おむつなどに蛍光剤を使用することが規制されていますが、日本ではどのような対策を取っていますか？
- Q 中国では日本製の紙おむつが人気です。同じように中国で生産された私たちの商品を日本の消費者に受け入れてもらうために、私たちが注力すべき点を教えてください。
- Q 介護において大人用紙パンツとパッドを組み合わせて使用する場合、最適な使用枚数は1日に何枚くらいでしょうか？あるいは、1日に何枚使用されているのでしょうか？
- Q 乳幼児向けの紙おむつでニオイの改善を考えています。ニオイの評価に関する国際基準など指針となるものはありますか？

日本から中国へ

- Q 中国ではインターネットを通じた販売チャネル(ECチャネル)の急成長を、業界としてどのようにとらえていますか？
- Q 日本では大人用紙おむつの購入・使用に際し、介護保険などで一部支援する制度があります。中国では似たような国による補助制度などがありますか、或いはこれから制度化されるのでしょうか？
- Q これからの中国市場は、一人っ子政策の変化で、どこまで出生率が増え、それが市場拡大につながると予想しますか？
- Q 柔らかさを実現する不織布として中国ではどのタイプの不織布が主流となっていますか？



様々な角度からの質疑応答が行われたことで、より具体的で深い相互理解を得ることができ、会場は一層の盛り上がりを見せました。

第三回『日中衛生用品企業交流会』のまとめ

中国の衛生用品市場は、2015年732.6億元(乳幼児用紙おむつ313.8億元、大人用紙おむつ45.2億元、生理処理用品373.6億元:国内生産額ベース)、対前年の伸び率は市場全体で平均11.2%ですが、今年に入り乳幼児12%増、大人用20%、生理処理用品7%増と推移し、全体として10%増であり成長・拡大しています。

要因として、消費者ニーズにあった商品への革新とハイエンド商品の販売エリア拡大、輸入品の拡大、そして販売チャネルとしてインターネットを通じたEC市場が拡大していることが報告されました。また、中国は2015年

で65歳以上の人口は1.4億人ですが、まだ大人用紙おむつの浸透率は6.5%との報告があり、中国市場の期待感を集めることとなりました。

日本の高齢者介護と大人用紙おむつを使用している現状についての講演では、中国の介護市場の先行事例となることから、有意義な発表、との評価を受けました。

さらに日本から紹介、提言された製品に関する品質、安全、規格、国際標準などは、強く関心を持って受け入れられ、今後の協力体制につながるものとなりました。

展示コーナー ～両国の最新商品を展示～

別会場では日中両国の衛生用品(乳幼児用紙おむつ、大人用紙おむつ、生理処理用品)の展示がされました。日本からは日本で販売されている乳幼児用紙おむつと大人用紙おむつの各社の代表的な商品とテレビ広告、中国からは講演された革新的な商品を中心に展示され、多くの出席者が見学しました。



レセプションパーティー ～なごやかに友好関係を深めました～

夕刻より全出席者参加によるレセプションパーティーが開催され、日中それぞれの代表者が挨拶、有意義な交流会となりました。

■ 中国造紙協会生活用紙専門委員会主任/ 中国轻工グループ会社副総経理 曹振雷博士

中国の衛生用品業界は近年大きな発展を遂げていながらも、子供用紙おむつや大人用紙おむつの市場においては、全国的な視点とすればまだ普及の余地がある、とされ、そこに大きな市場潜在力の可能性を感じるとともに、消費者の新しいニーズに応えることのできる製品提供が必要と強く感じていると述べられました。そして日本と同様、高齢化に直面している中国で、成熟した市場である日本との交流は大変価値が高いということを実感され大きな期待として話されました。最後に明日の工場見学が円満に成功することを祈念され乾杯となりました。



中国造紙協会生活用紙専門委員会主任／中国轻工グループ会社副総経理
曹振雷博士

■ (一社)日本衛生材料工業連合会会長/ ユニ・チャーム株式会社代表取締役社長執行役員 高原豪久氏

日本側出席者を代表してあいさつに立たれた高原会長は、孟子の言葉を引用して挨拶を始められました。「孟子の言葉に“競争する国がない国はやがて滅びる”という教えの通り、中国と日本で技術や革新のために多くを学び、将来に渡って切磋琢磨する友好関係を築いていくことを切望します。私たちの会社には流通の変化を乗り越えていくという意味を含んだ“創流”という造語があります。現在に即した新しい「創流」が必要です。消費習慣や購買習慣の激変を好機として消費者を起点とした新たな流通を作っていくことが必須で、EC先進国として「オムニチャネル経済圏」を形成し、世界から刮目されている中国はまさにこうしたことを体現しています。同士であり良き競合として、「共存共生」から「共存共振」していく関係を構築していけることに期待しています。」と述べられ、和やかなパーティーが始まりました。



(一社)日本衛生材料工業連合会会長/
ユニ・チャーム株式会社代表取締役社長執行役員 高原豪久氏



現地企業の工場視察

11月2日 参加者全員がバス6台に分乗し、現地企業(2社)の工場を見学しました。

①午前：恒安国際集团有限公司 泉州工場見学(2014年に稼働した工場)

恒安国際集团有限公司は、生理処理用品・紙おむつなど、衛生用品では中国ローカル企業最大手です。



②午後：廈門延江新材料股份有限公司

同社は2000年設立の機能性不織布を主体に生産している企業で、2014年に稼働を開始した生産工場を見学しました。



以上 2日間に渡る交流会を予定通り終えることができました。